

平成 30 年度第 2 回 第 3 期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会

日時：平成 31 年 2 月 21 日（木）
13 時 30 分～15 時 30 分
場所：港北区役所 特別会議室

次 第

1 開会

2 挨拶

港北区長 栗田 るみ

港北区社会福祉協議会会長 飯山 精三

3 議題

(1) 第 3 期「ひっとプラン港北」平成 30 年度の取組報告

【資料 1】【資料 2】

(2) 第 3 期「ひっとプラン港北」平成 31 年度の取組の方向性

【資料 3】【資料 4】

(3) その他

4 閉会

資 料

- 資料 1-1 第 3 期「ひっとプラン港北」平成 30 年度の取組報告
- 資料 1-2 重点取組別 平成 30 年度の振り返り
- 資料 1-3 第 3 期「ひっとプラン港北」地区計画推進状況
- 資料 1-4 平成 30 年度港北ほくほくフェスタ開催報告
- 資料 2 平成 30 年度地域福祉保健計画に関する区民意識調査報告
- 資料 3-1 第 3 期「ひっとプラン港北」平成 31 年度の取組の方向性
- 資料 3-2 計画策定に関わる検討部会及び関係団体ヒアリングの実施
- 資料 4-1 第 3 期 計画推進スケジュール（平成 28～32 年度）
- 資料 4-2 第 4 期 計画策定スケジュール

参考資料 1 地域における子どもの居場所づくりサポートモデル事業

参考資料 2 平成 30 年度「ひっとプラン港北」地区連絡会議報告書

第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会 委員名簿

五十音順・平成31年2月現在

氏 名	所 属
座長 うつみ ひろし 内海 宏	(株)地域計画研究所 所長
くろやなぎ みえ 畔柳 三笑	港北区社会福祉協議会 セーフティネット分科会
こばやし たつお 小林 辰雄	港北区連合町内会会長
さかい まつお 酒井 松雄	港北区老人クラブ連合会会長
しのざき もとひこ 篠崎 元彦	港北区社会福祉協議会地区社会福祉協議会分科会副会長
ないとう えいじ 内藤 英二	港北区医師会会長
はら みき 原 美紀	NPO法人びーのびーの事務局長
ふくまつ みよこ 福松 美代子	港北区保健活動推進員会会長
ほしの まさあき 星野 昌昭	下田地域ケアプラザ所長
ほんだ かずのり 本田 和徳	しんよこはま地域活動ホーム所長
むらの あけみ 村野 明美	港北区ボランティア連絡会会長
やまぐち さなえ 山口 早苗	港北区民生委員児童委員協議会副会長

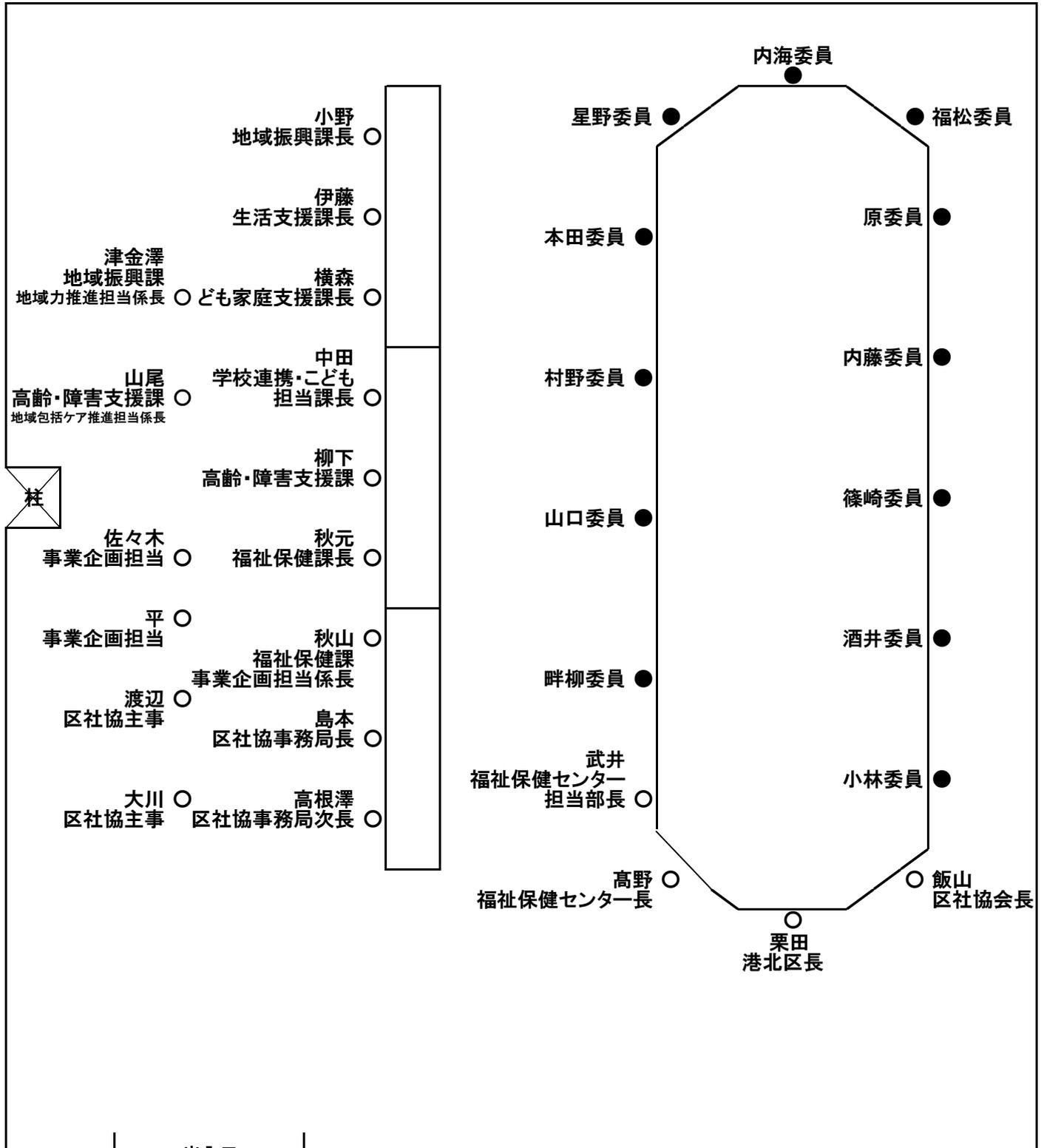
「ひっとプラン港北」策定・推進委員会 事務局名簿

氏 名	所 属
栗田 るみ	港北区長
飯山 精三	港北区社会福祉協議会会長
高野 つる代	港北区福祉保健センター長
武井 和弘	港北区福祉保健センター担当部長
秋元 秀臣	港北区福祉保健センター福祉保健課長
秋山 美帆	港北区福祉保健センター福祉保健課事業企画担当係長
島本 洋一	港北区社会福祉協議会事務局長
高根澤 恵子	港北区社会福祉協議会事務局次長
柳下 裕明	港北区福祉保健センター高齢・障害支援課長
横森 喜久美	港北区福祉保健センターこども家庭支援課長
中田 一志呂	港北区福祉保健センター学校連携・こども担当課長
伊藤 泰毅	港北区福祉保健センター生活支援課長
小野 佐幸美	港北区地域振興課長・地域力推進担当課長
津金澤 恭之	港北区地域振興課地域力推進担当係長

平成30年度第2回 第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会 座席表

平成31年2月21日(木)

13時30分～15時30分(予定)



港北区役所特別会議室

第3期「ひっとプラン港北」平成30年度の取組報告

1 平成30年度の取組

重点取組 | ひろがる

多くの地域で多様な世代の住民に活動へ参加してもらうための取組みが進められています。更に取り組みが発展するよう区・区社協・地域ケアプラザが支援し、住民主体の通いの場が充実してきました。また、地区社会福祉協議会の活動支援や企業の社会貢献活動のコーディネートを行い、協働の取組を進めました。子育て分野でも居場所づくりや子育て支援関係団体によるネットワークづくり、子育て世代に向けた情報発信の体制づくりができました。

【重点取組別 振り返りより抜粋】

- ・「広報戦略について」の研修及び地区情報交換会の開催（新規）
- ・子育て情報通知アプリ（ココアプリ）の機能強化（岩崎学園情報科学専門学校・どろっぷ・区）
- ・人材発掘を目的とした講座の開催
- ・既存の地域活動等から新たな社会資源への移行及び創出支援
- ・食や学習などをきっかけとする「子どもの居場所」づくりの取組

重点取組 | つながる

住民一人ひとりが自ら近隣とつながりを持ち、日頃から顔の見える関係を作っておくことの必要性が認識されています。住民等が主催する子育てや健康づくり、特技等をいかした多様な交流の場が増えてきています。誰もが住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、認知症や障がいの理解啓発に重点的に取組みました。

【重点取組別 振り返りより抜粋】

- ・交流の拠点となる「みんなの居場所」助成金の創設（新規）
- ・多世代交流の居場所づくりの検討
- ・障がいの理解をテーマとした「港北ほくほくフェスタ」の開催
- ・小中学校や事業所での認知症サポーター養成講座の開催
- ・高齢者の参加、活躍する場所や機会の充実
- ・ウォーキングサポーターの人材育成と活動支援

重点取組 | とどく

自ら相談しにくい困りごとを抱える方や支援が必要な方を速やかに把握する仕組みづくりを進めました。認知症キャラバンメイトへの活動支援や認知症の高齢者等を早期に発見する仕組みづくりに取り組み、地域での緩やかな見守りが広がってきています。高齢者や障がい者、子育てに関する相談支援機関の機能を強化して、身近な地域で相談や支援が受けられる環境を整備しています。災害時要援護者支援においては、各地区の特性に合わせた支援体制づくりを進めました。

【重点取組別 振り返りより抜粋】

- ・母子保健コーディネーターの配置（新規）
- ・防災情報アプリの配信（新規）
- ・生活困窮者自立支援事業に関する周知
- ・災害時要援護者支援事業の新規協定締結（5自治会町内会）

スケジュール

日にち	取組	概要
4月	地区計画ニュースの発行	地区の取組、推進の状況を広く地域にお住まいの方に周知しました。
9月	平成30年度港北区地域福祉保健計画に関する区民意識調査の実施	港北区地域福祉保健計画（ひっとプラン港北）第3期計画（平成28～32年）の評価、および第4期計画策定に活用するため調査を実施しました。 資料2参照
11月2日（金）	ほくほくフェスタ 区民フォーラムの開催	タイトル：「知ってもらえたら心強い“障がい”のこと ～本人の気持ち、家族の思い、支援者の願い～」 資料1-4参照
11月29日（木）	地区連絡会議	地区計画推進の実務者が出席し、意見交換を行いました。 参考資料2参照
2月21日（木）	第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会	30年度の報告と31年度の取組の方向性についてご報告し、課題となっていることについて意見交換を行います。
3月	地区計画ニュースの発行	地区計画ニュース作成について、各地区に依頼しています。地区の取組を振り返り、次年度の取組を確認します。

幅広い住民の地域活動への参加促進

背景

- 自治会町内会をはじめとする地域活動において、担い手不足や参加者の減少が課題になっています。一方、多様な技術を持ち地域に関心を持ちながらも、参加に至らない住民も多くいます。
- 多くの住民に地域活動を知ってもらうために、情報発信の取組が行われています。若い世代に向けて情報ツールを工夫する必要性が認識されていますが、技術的な課題等により困難な場合があります。
- 特に地域活動に疎遠になりがちな若い世代や団塊の世代が参加しやすいよう、情報発信とあわせて、参加のきっかけづくりや、活動内容や運営面での工夫が必要です。
- また、地域活動を始めたいと考える方に対してよりきめ細かい支援を行うコーディネーターの充実が望まれています。

取組目標

- 1 地域活動の魅力を伝え、多くの住民の理解を深めます。
- 2 多様な地域活動への参加のきっかけをつくり、継続に向けた支援を行います。

[区役所・区社協・地域ケアプラザの取組]

- 各世代にあわせた効果的な媒体を用いて、地域活動の重要性や魅力を発信すると同時に、地域の活動団体等が情報を発信する取組を支援します。
- 地域活動への多様な参加のあり方についての啓発を進めると同時に、参加のきっかけをつくります。
- 様々な世代が感じている地域課題を当事者同士で共有する場をつくり、課題解決しようとする取組を支援します。
- 多様な経験、スキルを持った人材が、自治会町内会をはじめとする地域活動団体と連携するきっかけをつくります。
- 港北区ボランティアセンターにおける、活動支援およびコーディネート機能を強化します。
- 港北区区民活動支援センターや地域ケアプラザ等のボランティアをコーディネートする施設が連携し、ボランティアの育成と活動支援を行います。

地域での取組例

- 地域活動に関する情報発信（広報紙、ホームページなど）
- IT活用に関する講座の開催
- 多様な世代にとって参加しやすい行事や活動の企画、運営
- 子育てや介護をしている人等が活動に参加するきっかけづくり
- ボランティア講座、技術講習会、活動体験の開催
- 個人の趣味や特技を活かせる活動の場づくり

ひろがる-1 平成 30 年度の振り返り

- ・地域では、新たな情報ツールであるホームページやイベントカレンダーなど、地域活動を多くの方に伝える取り組みが進められています。さらにホームページの活用を含む周知方法について「広報戦略について」の研修及び情報交換会を開催して、実際に地区の情報発信へ活用しています。
- ・多様な世代に地域ケアプラザへの来館を促すため、幼児向けの親子音楽会や地域活動団体の発表会等を開催しました。また、来館者に地域の活動等の周知を行い、活動に参加するきっかけづくりを行いました。
- ・地域や地域ケアプラザによる、「障がいの理解」に関する研修会や障害者ガイドボランティア講座の開催を通じて、障がいの理解や生活を支えるための担い手づくりに取り組みました。
- ・地域ケアプラザや区内の区民利用施設が、それぞれの持つ機能や情報を有効に活用して連携することを目的に、地域施設間連絡会議を行っています。今年度は参加する施設（横浜ラポール・港北区生活支援センター）の追加や施設間での事業に関する情報共有を行い、顔の見える関係づくりにつながりました。

【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・「広報戦略について」の研修及び地区情報交換会の開催
- ・子育て世代に対する情報発信をメール形式情報発信からスマホアプリ型「ココアプリ」に転換。さらに機能を強化するため、岩崎学園情報科学専門学校・どろっぴ・区で協働。
- ・地域活動参加へのきっかけづくり
 趣味や健康づくり活動等をきっかけにした地域活動参加への働きかけ（園芸教室）
 ボランティア養成講座（障害者ガイドボランティア講座など）
 学生ボランティア体験「ボラリーグ☆こうほく」
- ・あらたな人材発掘を目的とした講座等の開催と仕組み作り
- ・地域施設間連携会議開催（2回）
- ・高齢者への介護予防活動周知リーフレット「いきいき元気マップ」の配布
- ・「おすすめ地域活動ガイド」を作成、シニアボランティアポイント研修を開催して周知

【地域での主な取組】

- ・ホームページの運営（高田ほか6地区）※検討中含む
- ・イベントカレンダーの発行（師岡ほか6地区）※検討中含む
- ・多くの住民が参加するイベントやまつりの開催
- ・趣味や特技を活用できるボランティアの募集（新羽）
- ・地域食堂の立ち上げをきっかけとした人材発掘（樽町）
- ・小中学校における認知症サポーター養成講座、福祉教育の実施

地域活動の活性化と拡がり促進

背景

- 地域では、自治会町内会、地区社会福祉協議会をはじめ、福祉活動団体、NPO法人等が様々な活動を行っています。これらの活動を行うにあたって、活動場所や資金、人材などの課題を抱えている団体は少なくありません。
- 活動の拠点となる施設は地域によってその数に偏りがあり、また、収益をあげにくい福祉保健活動に対する行政等の補助、助成は活動の存続に大きく関わっています。活用しやすい資源（人材、拠点、資金、物資、情報等）の整備と情報提供が望まれます。
- あわせて、個々で活動している団体間の連携を促進することによって、固有の課題を解決したり、さらに発展させたりしていくことが期待されます。

取組目標

- ① 円滑な福祉保健活動の推進のために、地域資源の活用を進めます。
- ② 多様な活動団体のネットワークづくりを進めます。

[区役所・区社協・地域ケアプラザの取組]

- 既存の施設や空き家、空き店舗等の活用を進めます。
- 地域福祉保健を推進する事業に対して、補助金等の資金支援を行います。
- 活用できる人材、拠点、補助金等の情報を整理し、地域に提供します。
- 地域活動の企画、運営、広報等の支援を強化します。
- 自治会町内会活動、地区社会福祉協議会への支援を強化します。
- 地域活動団体と、企業、施設等との協働を支援します。
- 様々な分野の活動団体が情報交換、交流する場を設け、連携のきっかけをつくれます。

地域での取組例

- 多様な団体と連携した地域活動の展開
連携する団体の例：老人クラブ、子ども会、趣味のサークル
企業、学校、商店会、福祉施設、市民活動団体
- 同じ地域で活動する団体同士の連携促進（活動交流会、ボランティア連絡会など）

ひろがる-2 平成30年度の振り返り

- コーディネーターを中心に、地域の社会資源や活動団体に関わり、住民主体の通いの場を充実させるなかで、あたらしく「住み開き」※による居場所ができました。人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進しました。
※住居等を本来の用途や機能を保ちながら、一部を限定的に開放することによって、セミパブリック化させる活動や運動、そのような使われ方をする拠点のこと
- 地区社会福祉協議会の組織や活動内容等を周知するための「地区社協のてびき」が改訂したことに合わせて、様々な場で地区社協の活動の周知を行いました。
- 企業が行う地域、社会貢献活動のコーディネートを行いました。（エアーコンプレッサーを特別養護老人ホームへ寄贈）
- 「ひっとプラン地区連絡会議」を開催して、他の地区間で意見交換を行いました。他地区の取組について情報共有を行ったことで、それぞれの地区へのフィードバックや共通課題の認識につながりました。

【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- 地域福祉保健を推進する活動への支援
 - 「地域の子カラ応援事業補助金」
 - * 35事業に補助金交付、団体交流会実施
 - 「港北みんなの助成金」
 - * 254事業に助成金交付
 - * 新規団体立ち上げ支援 4事業（介護予防・日常生活支援総合事業試行含む）
- 既存の地域活動から新たな社会資源への移行及び創出支援
 - * 介護予防・日常生活支援総合事業の推進（継続4団体・新規2団体）
- 企業や社会福祉法人との協働を推進
 - 高齢者入所施設の一部を地域住民に開放し、イベントやサロンを開催。（5か所）

【地域での主な取組】

- 「住み開き」による住民交流の居場所づくり（高田）
- テーマごとの連絡会（部会）を設置し、地区計画を推進（城郷ほか6地区）
- 地域で活動する団体の活動発表会や懇談会（篠原ほか2地区）
- 地域の活性化に向けた団体や個人のつながりを考えるワークショップの開催（城郷）



未来を担う次世代育成

背景

- 小さな子どもがいる世帯のほとんどは核家族世帯です。また、転入世帯が多いことなどから地域とのつながりも希薄で、子育てに関して周囲の支援が得にくい状況があります。子どもと地域の関わりも少なくなっています。
- 地域子育て支援拠点と協働し、子育て家庭の支援や子育てを支える地域づくりに取り組んでいます。
- 地域ぐるみで子育て世帯に関心を持ち、見守っていく風土が求められています。子どもや子育て世代が身近な地域で気軽に近隣の住民と交流したり、子育てに関する悩みを相談したりできる場も必要です。
- 同時に、将来の地域づくりの担い手となる子どもたちが、地域とのつながりの重要性を理解できるような取組を進めていくことが重要です。

取組目標

- ① 地域ぐるみで子どもを見守り、子ども自身が心身ともに成長していく力を育てていけるような子育てにやさしいまちづくりを進めます。
- ② 次世代を担う子どもたちに、地域との関わりやつながりの大切さを理解してもらい、地域への愛着心を育てます。

[区役所・区社協・地域ケアプラザの取組]

- 子育てに関する相談・支援機能をもつ拠点を拡充します。
- 子育て支援に関わる人材や関係機関等のネットワークを強め、地域の子育て支援の活性化と人材の支援・育成を行います。
- 子どもの居場所づくりを進めます。
- 地域ぐるみで子育てを見守る風土づくりを進めます。
- 子どもの虐待や貧困等への対応に、より一層学校と連携して取り組みます。
- 小中学生やその保護者に向けた地域活動への理解を深める取組を、学校と連携して推進します。
- 福祉教育の充実を図り、次世代の活動者を育成します。

地域での取組例

- 子育て世帯が参加する住民交流の場づくり
- 子育てに関する情報発信
- 子育て応援キャンペーン活動の実施
- 安心、安全なまちづくりの推進
- 子どもが福祉や地域への理解を深める機会づくり
- 学校やPTAと連携した地域活動の推進
- プレイパークの運営

ひろがる-3 平成30年度の振り返り

- 子育て支援拠点や親と子のつどいの広場では、利用者の増加や子育てに関する相談実績が増加してきています。地域でも、まちぐるみで子育て世帯を支えるためのネットワークづくりや子育てサロンの拡充などの取り組みが広がりつつあります。港北区では今後も、地域との関係が希薄な子育て世帯の増加が予想されており、相談、支援体制の充実やつどいの場づくりなどを進める必要があります。
- 地域では食や学習などをきっかけとする「子どもの居場所」づくりの取り組みが広がっています。また、食を通じた居場所づくりを実施する団体の連絡会では、食材の寄付と活用の仕組みについて検討し、ほくほくフェスタにおいて「フードドライブ」を継続して実施しました。
- 地域と学校の連携により、地域活動や防災拠点訓練への子どもの参加や、地域の活動団体等が学校の福祉教育に協力する機会が増えています。このような経験を通して地域への愛着を深めること、また子どもを通じて保護者の地域活動への関心を高める必要があります。

【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- 子育て支援機能をもつ拠点の充実
地域子育て支援拠点、利用者支援事業、親と子のつどいの広場事業の安定的な運営
- 子どもの居場所づくり
「放課後キッズクラブ」の拡充
*新規開設5校（区内合計15校）
寄り添い型学習支援事業「港北べんきょう会」開催（区内2か所）
*小中学校専任会にて説明を実施。
区内の子どもの居場所についてリストを作成（26か所）
- 子育てを見守る風土づくり
「子育てサポートシステム説明会」の開催
- 食の支援ネットワーク会議（2回、16団体参加）での検討をもとにフードドライブ実施
- 区内小中学校における福祉教育の実施

【地域での主な取組】

- 地域の子育て支援に関わる団体や機関のネットワーク会議やイベント実施（綱島、高田）
- 地域への愛着形成を目的とした「盆踊り練習会」の開催（新羽、高田）
- 子育て世代が多く参加する住民交流の場の開催
- 子どもの居場所の開設または検討（城郷ほか4か所）
- 学校と連携した生徒の地域活動への参加（広報紙の編集、イベントボランティア等）
- 小中学校における認知症サポーター養成講座、福祉教教育の実施【再掲】
- 子育てサロンの新規開設（日吉）



人と人とのつながりづくり

背景

- 単身世帯の増加、近所の人へ声かけする住民の割合の低下などから、近隣関係が希薄化していることがうかがわれます。
- 一方で、災害の頻発や高齢者世帯の増加、子どもなどの弱者が巻き込まれる事件の発生などから、近隣と顔の見える関係をつくっておくことの大切さが再認識されてきています。
- 近隣住民がつながるきっかけをつくり、あわせて、地域とつながりを持つことが困難な人には、情報を届け、参加を促すことが必要です。

取組目標

- 1 住民一人ひとりが地域とつながり、支えあうことの重要性について理解を深める取組を進めます。
- 2 住民が交流する機会、場を増やします。

[区役所・区社協・地域ケアプラザの取組]

- 自ら人と交流し、地域とつながりをつくっておくことの重要性の啓発を進めます。
- 健康づくりや趣味の活動など、交流につながる多様なきっかけづくりに取り組み、また、地域が行うそれらの活動を支援します。
- 地域の福祉活動団体等と連携し、地域とつながりを持ちにくい方への働きかけを行います。
- 交流の場や「居場所」を運営するための資金面の支援や、場の確保に向けた関係機関との調整を行います。

地域での取組例

- 多世代が参加する住民交流イベントの開催
- 趣味の講座の開催による交流のきっかけづくり
- 小スペースを活用したお茶飲み会の実施
- サロンや居場所の立ち上げ、運営(子育て、高齢者、異世代交流など)
- 閉じこもりがちの方への声かけ

つながる-1 平成30年度の振り返り

- ・孤立死や虐待等の予防という視点だけでなく、災害時の迅速な支援のためにも、住民一人ひとりが自ら近隣とつながりを持ち、日頃から顔の見える関係を作っておくことの必要性が認識されています。地域では自治会町内会や民生委員等による挨拶運動、見守り活動や閉じこもりがちの方に対しての声かけが行われていますが、更に当事者団体や専門機関を通しての声かけも必要です。
- ・子育てや健康づくりなど、地域住民などが主催する多様な交流の場が継続的に運営され、また新たな取り組みも進んでいます。今後も地域のニーズに応じた交流の場を増やしていくことはもちろん、周知方法の工夫、気軽に参加できるような雰囲気づくりや顔の見える関係による声かけで参加を促すような取組も必要です。

【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・地域とのつながることの重要性の啓発
障がい児者の個別支援および自立支援協議会を通じた働きかけ
地域防災拠点訓練における要援護者受け入れ訓練の実施推進
「1人暮らし高齢者地域で見守り推進事業」による民生委員の個別支援
- ・交流の拠点となる「みんなの居場所」助成金の創設
- ・地域とのつながりづくりのため、地域育児教室（赤ちゃん会）の開催（24会場・各10回）
- ・地域ケアプラザにおける地域住民の交流の場づくり
介護予防や趣味をテーマにした講座、おまつり
父親を対象としたイベントや交流会

【地域での主な取組】

- ・住民交流イベントや地域のお祭り等の実施
- ・イベント開催時に地域組織や活動の紹介（樽町・高田）
- ・子育てや高齢者、多世代交流を目的としたサロンの運営・新規立ち上げ
- ・食の支援を視野に入れた多世代交流の居場所（樽町）
- ・健康麻雀、男の料理教室の開催
- ・障がい当事者の家族と支援者との意見交換会（日吉）

年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが参加できる場づくり

背景

- 高齢化により支援や見守りが必要な方が増える一方で、高齢になっても健康を維持しながら元気に活動したいと考えている方は多くいます。地域では活動の担い手として高齢者の活躍も期待されています。
- 公的制度に基づくサービスとあわせて、地域住民やボランティアによるきめ細かい支援(インフォーマルサービス)の重要性が高まっています。
- 年齢や障がい等による社会参加の困難さを解決するために、ハード面の整備や福祉サービスの充実とともに、身近な地域で高齢者や障がい者、子育て世帯等と地域住民が自然に声をかけ合い、顔の見える関係をつくっていくことが重要です。

取組目標

- ① 地域には様々な人が暮らしていることへの住民の理解を深めます。
- ② 年齢、障がいなどにかかわらず、参加できる場を増やします。

[区役所・区社協・地域ケアプラザの取組]

- 障がいや病気、国籍など、地域に暮らす様々な方への理解を深める取組を進めます。
- 学校や企業と連携して福祉への理解を深めます。
- 年齢や障がいにかかわらず主体的に参加できる地域活動の実施に向けて、働きかけを行います。
- 様々な場において高齢者が活躍できる機会を検討し、実施します。
- 老人クラブの取り組む幅広い活動を発信することにより、加入促進の取組を支援します。
- 障がい者が利用する施設等と地域がつながるきっかけをつくります。
- 公的施設などの整備にあたっては、高齢者、障がい者、子どもなど、誰もが利用しやすい福祉のまちづくりの視点を持って取り組みます。
- バリアフリーの推進に関する啓発に取り組みます。
- 障がい児・者のための外出相談室「おでかけGO!港北」の機能を高め、利用を促進します。
- 身近な地域での障がい児・者の居場所づくりを進めます。

地域での取組例

- 地域行事への参加呼びかけと、配慮が必要な方への対応の検討
- 高齢者や障がい者等の能力や特性を活かした活動の展開
- 地域の福祉施設と協働した交流の機会づくり
- 認知症カフェ、障がい児・者の居場所づくりの実施

つながる-2 平成30年度の振り返り

- ・認知症や障がいの理解啓発が進んでいます。高齢者や障がい児者が住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、地域での見守りの体制づくりに取り組む必要があります。地域共生社会の実現に向けて、多様性の理解を広げ、立場や背景を超えてつながり、認め合うことが必要です。
- ・障がいの理解を進めるため、港北ほくほくフェスタにて障がい当事者、家族、支援者によるテーマトークや「障がい児とその家族の写真展」を開催（区役所、図書館）しました。また、各地域防災拠点訓練では、障がい理解の啓発活動を行いました。
- ・地域ケアプラザ圏域ごとに高齢者のつどいの場づくりが進められています。健康づくり活動や趣味活動など、高齢者が参加する機会は少しずつ増えていますが、男性の参加者が少ないことが課題です。

【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・認知症や障がい等への理解啓発
 - 小中学校や事業所での認知症サポーター養成講座の開催
 - 障がいの理解に向けた地域住民向け講座の開催
 - 区役所、図書館における作業所製品販売
 - 地域防災拠点訓練における障がい理解の啓発
- ・区内小中学校における福祉教育の実施【再掲】
- ・高齢者の参加、活躍する機会の充実
 - 介護予防・日常生活支援総合事業の推進（継続4団体・新規2団体）【再掲】
 - 老人クラブ活動支援の推進（広報による活動の周知、ほくほくフェスタでの子育て支援団体との協働支援）
- ・障がい児者が参加する場づくり
 - 地域ケアプラザ等における障がい児余暇支援活動と人材育成の実施
 - 障がい児自主訓練会・サークル活動への協力、支援
 - 地域作業所連絡会主催交流イベントの開催
- ・生きがい就労支援スポットにおける高齢者が活躍できる場の提供
 - *相談実績 30年12月末時点708件（うち就業85件、ボランティア6件、地域活動2件）

【地域での主な取組】

- ・小中学校における認知症サポーター養成講座、福祉教育の実施【再掲】
- ・地域の障がい児者施設と連携したイベント、まつりの実施（菊名ほか3地区）
- ・老人クラブの活動
- ・配慮が必要な方の受け入れを想定した地域防災拠点訓練の実施（新吉田あすなろほか4か所）
- ・町内会館における作業所製品販売（師岡）
- ・障がい児者の居場所の運営（日吉ほか2地区）



健康寿命を延ばす取組の推進

背景

- 誰もが安心して健やかに暮らし続けるために、寿命を延ばすことだけでなく、その内の健康な期間を延ばす（健康寿命の延伸）という考え方が重視されており、横浜市でも「第2期健康横浜21」計画において「健康寿命日本一への挑戦」を掲げています。
- 高齢化が進むなか、いくつになっても自立した生活を送るためには、それぞれの世代にあわせた健康づくりの取組を行うことが重要です。
- 運動や休養とともに、「食生活」は健康づくりには重要な視点です。食育への関心が高まっている一方で、「孤食」などの問題も顕在化しています。
- 地域との交流や様々な活動への参加など、積極的に「つながり」をつくることで、心身の健康に効果があると言われています。

取組目標

- ① 健康づくりや「つながり」づくりの大切さへの理解を深めます。
- ② 身近な地域で健康づくりを行う場、機会を増やします。

[区役所・区社協・地域ケアプラザの取組]

- 健康づくりへの関心、意欲を高める仕掛けづくりを行います。
- 外出や他者との交流などの「つながり」が健康を保つことへの啓発を行います。
- 保健活動推進員や食生活等改善推進員が、他の委嘱委員や活動団体と連携して取り組む自主的な健康づくり活動を支援します。
- 身近な地域で介護予防の取組ができる場や機会を増やします。
- 学校、保育園と連携した子どもや子育て世代への啓発など、幅広い世代への食育活動を推進します。

地域での取組例

- ウォーキング、ラジオ体操など健康づくり活動の実施
- 介護予防、認知症予防講座の開催
- コミュニティレストランの運営

つながる-3 平成30年度の振り返り

- ・「フレイル」「ロコモティブシンドローム」や「地域のつながりと健康」等の啓発に力を入れて取り組みました。健康づくりや介護予防への住民の意識が高まり、地域でも多くの活動が行われています。また、地域とのつながりが希薄だったり、自分自身の健康づくり活動に取り組みにくい働き世代や子育て世代への啓発として、企業における健康づくりやウォーキングポイントアプリの普及啓発に取り組みました。
- ・保健活動推進員や食生活等改善推進員をはじめ、民生委員を中心とした介護予防ボランティア等の人材育成にも力を入れており、地域での活動の活性化につながる事例も増えてきています。既存の地域の活動の充実も含め、多くのつどいの場・健康づくりの場を広げていくとともに、活動を支える人材の育成も重要です。

【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・ウォーキングの取組啓発を通じた健康づくりの推進
ウォーキングポイント事業の普及啓発
ウォーキングポイントアプリの普及啓発（登録者 約 2,500 人）
ウォーキングサポーターの人材育成と活動支援
- ・商業施設でのイベント等を活用し、がん検診・特定健診の重要性を周知
*特定健診受診率（29年11月末）市内6位
- ・健康測定会の開催（25か所 1,500人）
- ・健康づくり、介護予防に関する予防啓発
*フレイル、ロコモティブシンドローム
*住民同士のつながりと健康（保健活動推進員、食生活等改善推進員）
- ・地域ケアプラザによる介護予防講座の開催や活動団体支援
- ・健康経営認証事業所の増加（29年度5施設から30年度 累計21施設）
- ・育ち、学び世代を対象とした食育イベント、離乳食教室の開催

【地域での主な取組】

- ・健康づくり部会（地区計画推進組織）におけるウォーキングや心の健康の取組（新吉田、新羽）
- ・保健活動推進員によるウォーキング活動や健康測定会の実施
- ・自治会町内会等によるウォーキングやラジオ体操などの健康づくり活動
- ・元気づくりステーションの新規立ち上げ（新吉田、新羽）
- ・スリーA等の認知症予防の取組の拡大と人材育成
- ・福祉保健講座の開催



支援が必要な方を発見し支援につなげる 仕組みづくり

背景

- 地域には支援が必要な状態でありながら、相談先がわからない、支援を受けたくない、などの理由で福祉保健サービスを利用せずに暮らしている方がいます。
- 個人情報への過剰な意識の高まりから、地域の福祉活動が困難になっている場合があります。
- ライフラインや新聞、宅配などの事業者により緊急事態が把握される事例が増えています。
- 状態が悪化して対応が難しくなる前に適切な支援を行うためには、日常的に見守り、関係者が情報を共有する仕組みをつくっておくことが必要です。

取組目標

- 1 日常的な近隣関係や福祉保健活動を通じた緩やかな見守りを推進します。
- 2 支援が必要な方を速やかに把握し、支援につなげる仕組みをつくります。

[区役所・区社協・地域ケアプラザの取組]

- 福祉関連事業者や医療機関、学校と連携して、認知症や障がい、児童虐待等の理解に関する普及啓発に取り組み、緩やかな見守りや異変への気づきにつなげます。
- 支援が必要な当事者に対して自ら発信することの重要性について啓発を行います。
- 施設、学校、事業者等と連携し、支援が必要な方を確実に把握する仕組みをつくります。
- 個人情報の適切な利用について、住民の理解を深めると同時に、行政が保有する個人情報を活用し、要支援者を把握する仕組みづくりを行います。

地域での取組例

- 啓発講座、福祉教育、認知症サポーター養成講座などの実施
- 日常生活の中の緩やかな見守り(近隣の見守りも含む)
- ITを活用した見守りシステムの開発
- 公的施設や商店街等と連携した徘徊高齢者の発見、通報の仕組みづくり
- 地域活動で把握した要支援者への対応を共有する場づくり(ボランティア連絡会など)

とどく-1 平成30年度の振り返り

- ・認知症や障がいの理解を促進するため、小中学校や地域住民への啓発に特に力を入れて取り組みました。また、事業者等との連携、啓発により、異変への気づきを促します。地域では、近隣同士の穏やかな見守りの仕組みづくりや見守り支援ツールの作成などに取り組みました。
- ・子育てや生活困窮、ごみの蓄積等については、積極的に相談しにくい内容である場合も多いため、当事者を理解し手を差し伸べる仕組みと地域づくりを進めています。
また、当事者自身からの相談を促すための情報提供に取り組むことも大切です。

【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・認知症や障がい等への理解啓発【再掲】
小中学校や事業所での認知症サポーター養成講座の開催
障がいの理解に向けた地域住民向け講座の開催
区役所、図書館における作業所製品販売
地域防災拠点訓練における障がい理解の啓発
- ・地区民生委員児童委員協議会定例会における生活困窮者自立支援制度の周知
- ・緩やかな見守りの仕組みづくり
地域ケアプラザ単位及び区域における認知症キャラバンメイトへの活動支援
認知症の高齢者などを対象とした「見守りシール」の配布
* 認知症の高齢者などが行方不明になったときに、できるだけ早く自宅に戻れるように、個人情報を守りながら身元を特定できる「見守りシール」を配布
- ・当事者自身による発信の重要性の啓発
港北区版エンディングノート、「救急医療情報キット」※の検討
※救急搬送時や災害時における高齢者等の円滑な医療介護情報の共有、速やかな対応を可能とするため、かかりつけ医や服薬内容、連絡先などの医療情報を収め冷蔵庫で保管する専用容器等を作成し、配布
子育てに関する連絡相談先（母子手帳型下敷き配布、子ども家庭支援相談チラシの改訂）
- ・要支援者を把握する仕組みづくり
「ひとり暮らし高齢者『地域で見守り』推進事業」の実施
「ごみ問題を抱えている人への支援事業」の実施
「災害時要援護者支援事業」の新規協定締結（5自治会町内会）

【地域での主な取組】

- ・小中学校での認知症サポーター養成講座、福祉教育の実施【再掲】
- ・高齢者を対象に「外出に関するアンケート」を実施（高田）
- ・災害時要援護者を地域で支える仕組みづくり
- ・地域・公的施設・商店等と連携した徘徊高齢者の啓発と通報システム（新吉田・新吉田あすなる）
- ・高齢者や要援護者とその支援者が活用できる情報シートの配布、記載内容の改訂（菊名ほか2）

身近な場所で相談・支援が 受けられる環境整備

背景

- 支援が必要と感じた時にどこに相談したら良いかがわからない、相談・支援の拠点となる専門機関が遠方にある、などの理由で、適切な支援を受けられないことがあります。
- 気軽に相談・支援を受けられる場を増やしていくことと同時に、医療や福祉の専門機関を含む地域のネットワークをつくることによって重層的な支援体制をつくっていくことが重要です。

取組目標

- 1 地域と専門機関等が連携し、地域で支援が必要な人を支える仕組みをつくれます。
- 2 身近な地域で相談や支援を受けられる環境を整えます。

[区役所・区社協・地域ケアプラザの取組]

- 必要とする人が的確にサービスの情報を得られるよう、情報発信の工夫や相談を受ける支援者のスキルアップに取り組みます。
- 既存の福祉施設の機能を強化することを含め、相談・支援機能をもつ拠点を拡充します。
- 高齢者や障がい者、子育てなど分野別の支援者ネットワークを強化し、支援の質の向上を図り、区域の課題解決に向けた検討を行います。
- 住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができるよう、医療と福祉の連携を強化し、包括的な支援・サービス提供の仕組みをつくれます。
- 住民と活動団体、関係機関等が地域の課題について共有し、対応を検討する場をつくっていきます。
- 地域たすけあい型ボランティア活動への支援を強化します。
- 民生委員・児童委員が活動しやすい環境をつくれます。
- 生活困窮者の自立支援を強化します。

地域での取組例

- 地域型ボランティア(家事支援、育児支援、障がい児の通学支援など)
- 日常的な見守り活動
- 高齢者などの外出を支援する地域交通の運営
- 経済的困難な状況にある小中学生等を対象にした学習支援

とどく-2 平成30年度の振り返り

- ・高齢者、障がい者、生活困窮者に関する地域と専門機関の連携のもと、身近に相談できる場所が活用されています。障がい児者支援においては、障害者ガイドボランティアの育成に取組み、障がい児の通学支援等につながりました。専門機関を含む地域のネットワークを活用し、様々な相談を適切に支援につなげる仕組みを確立することが重要です。
- ・妊婦中から地域の子育て支援機関とつながれるように、区内で開催される妊娠期向けプログラムが網羅された「にんしん・あんしんセレクト」を地域の関係機関と区で作成して、母子健康手帳交付時に約3,200部を配布しました。母子保健コーディネーターが丁寧に案内することで各種プログラムへの参加の動機付けとして効果が表れています。

【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・ 母子保健コーディネーターの配置
母子健康手帳交付時面接 2,386件 (30.5月~12月)
- ・ 要保護児童対策地域協議会エリア会議開催によるネットワーク推進
*3エリアで新たに開催し、全10エリアで実施
- ・ サービスに関する情報発信の充実
子育て情報通知アプリ(ココアプリ)の配信(ダウンロード数約3,200件)
自立支援協議会ホームページの活用
- ・ 生活困窮者自立支援事業の強化
保険年金課・税務課職員との相互研修と連絡会の開催、転入職員向け研修実施
区社協(生活福祉資金貸付・あんしんセンター)等関係機関との研修と連絡会の実施
寄り添い型学習支援事業「港北べんきょう会」開催(区内2か所)【再掲】
*小中学校専任会にて説明を実施。
- ・ 相談・支援機能を持つ拠点の拡充
基幹相談支援センター・生活支援センター・自立支援協議会と連携しスキルアップ研修実施
地域子育て支援拠点の機能強化(利用者支援事業、親と子のつどいの広場事業の安定的運営)
- ・ 民生児童委員、主任児童委員の活動を推進
広報(特集記事)掲載、図書館等でのPRパネルの展示、区民まつり・日吉駅での啓発

【地域での主な取組】

- ・ 地域たすけあい型ボランティアグループ活動
- ・ 日常的な見守り
- ・ 見守り活動のプレート作成と掲示(菊名、新吉田、新吉田あすなろ)
- ・ 地域の居場所における各種相談受入れと地域ケアプラザとの連携(大倉山ほか2地区)



災害に備えた要援護者支援の 仕組みづくり

背景

- 国内各地で発生する大きな災害をきっかけに、災害への備えに対する関心が高まっています。
- 地域には、災害発生時の避難や、その後の生活に困難が予想される方（以下、「災害時要援護者」）が多く暮らしており、そのような方々への情報伝達や避難支援、安否確認が課題です。
- 横浜市では災害時要援護者名簿の地域との共有を進めており、地域では見守り活動や日頃の顔の見える関係づくりが進められています。また、近年では、「自助」「共助」「公助」の考え方に基づく「減災」の取組を推進しています。

取組目標

- 1 災害時に、必要な人に適切に支援が届くような環境整備を進めます。
- 2 災害時の支援が円滑にできるよう、日頃から住民同士の顔の見える関係や、支援の仕組みをつくります。

[区役所・区社協・地域ケアプラザの取組]

- 防災、減災に向けた啓発を進め、住民の災害に対する意識を高めます。
- 災害時に支援が必要と思われる方の情報を地域の防災組織に提供することにより、要支援者を地域で把握する仕組みづくりに取り組みます。
- 地域で行われる日常的な見守り活動の充実や、住民同士の顔の見える関係づくりを支援します。
- 災害時要援護者支援を含めた地域の防災活動への支援を強化します。
- 医療機関等と連携し、災害時に最も効果的な救護活動を行う仕組みづくりを進めます。
- 様々な状況の方の人権に配慮した避難所運営を、地域の防災拠点運営委員会と協働で進めます。
- 災害時のボランティア活動をスムーズに運営するための災害ボランティアセンターの体制整備に取り組みます。

地域での取組例

- 自助・共助に関する住民への啓発
- 災害時の助けあい(災害時要援護者支援)
- 防災拠点訓練等を活用した要援護者支援訓練
- 日常的な見守り活動

とどく-3 平成30年度の振り返り

- ・災害時要援護者支援の取組においては、要援護者の情報をできるだけ正確に把握し、日頃から顔の見える関係をつくっておくことの重要性が高まっています。また、地域防災拠点は要援護者の受け入れを想定した避難所運営を心がける必要があります。防災の啓発と地域における支えあいのきっかけづくりのためにも、多くの住民の参加を促進することが重要です。
- ・防災、減災に向けた情報発信の強化に取組み、市内で初めて「防災情報アプリ」を開発、配信しました。自治会町内会では、災害時要援護者支援名簿をもとに、各地区の特性に合わせた支援の仕組みづくりを進めており、拠点運営において要援護者への配慮がいっそう求められています。

【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・防災の取組の推進
震災・風水害の啓発
要援護者等を対象とする緊急時情報受伝達システムの登録向上の取組（30年度411件）
地域や関係機関が連携した要援護者避難訓練及び在宅避難者安否確認訓練の実施
- ・災害時医療救護活動における医療機関との連携強化
新たに医療救護隊参集拠点を増設
- ・発災時の地域防災拠点における生活環境改善のための取組
環境改善備品の配布（自動ラップ式トイレ・ダンボールベッド）
配慮が必要な住民のための教室確保について
要援護者に配慮した拠点開設・運営のためのマニュアル作成支援
- ・要援護者を把握・支援する仕組みづくり
「災害時要援護者支援名簿」について、新たに5自治会町内会に提供開始【再掲】
地域防災拠点訓練における要援護者に配慮した拠点運営訓練の実施を促進
障がい児・者への対応の啓発拡大（コミュニケーションボード、バンダナの活用の啓発等）
- ・防災・人権講演会の開催
- ・「災害時要援護者支援取組ハンドブック」の発行

【地域での主な取組】

- ・災害時要援護者支援事業の協定締結に伴う要援護者の支援体制づくり
- ・自助・共助に関する研修の開催
- ・地域防災拠点訓練や地域の防災訓練、日常的な見守り活動を活用した要援護者支援訓練等
- ・まち歩きを通じた災害時の助け合いの仕組みづくりの検討（日吉）
- ・災害時の要援護者支援体制づくりの為に勉強会（新吉田）

「ひっとプラン港北」地区計画推進状況

平成31年2月21日現在

地区	推進体制	30年度の主な取組
日吉	<ul style="list-style-type: none"> 地区全体の推進委員会を年2回開催するほか、地区内5つの地区民児協エリアごとに、既存の地区活動を通して取組を推進。共通テーマは「防災から福祉を考える」。 「光と活力活動発表会」実行委員会を年6回開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 5地区民児協エリアごとに取り組んでいる活動の継続実施 「防災から福祉を考える」を共通テーマに、各地区で防災と福祉の視点で、まち歩きを実施。マップ作りを実施 年1回の光と活力の活動発表会で、各地区の取組を発表し、5地区の情報共有を図っている。 「下田地区地域ケア委員会だより」の発行（9～12月のイベントカレンダー掲載）
綱島	<ul style="list-style-type: none"> 「交流・情報」「子育て支援」「見守り・支援」の3部会で推進 推進委員会（全体会）で共有。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流サロンの運営 ホームページの運営 綱島地区子育てネットワークの開催 災害時要援護者支援連絡会の開催 防災カード、防災袋の配布
大曽根	<p>「交流」「見守り・支えあい」「安全・安心」の3部会で推進し、年数回の推進委員会で共有。</p>	<ul style="list-style-type: none"> イベントカレンダー発行 ホームページ内容の充実化 緊急時の見守り体制について検討 防災訓練の充実と災害時要援護者支援の体制づくり
樽町	<ul style="list-style-type: none"> 「交流」「情報」「子育て・啓発」「見守り・支援」の4部会で推進。 2～3か月に1回、推進委員会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民交流イベントの開催 交通安全教室の開催 ホームページの更新 イベントカレンダー発行 災害時要援護者支援の体制づくり 多世代交流を目的とした地域食堂「樽町なごみ食堂」開始
菊名	<ul style="list-style-type: none"> 地区内3つの地区民児協エリアごとに計画を推進。 年2回、推進委員会を開催。 	<p>〈3地区共通の取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護予防・居場所づくりを目的としたスリーA活動を全地区で実施。プログラムを充実。 生活安全安心メモの内容更新・配布 <p>〈各地区の取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「高齢者110番」のプレート設置 交流ベンチの設置場所拡大 交流の輪づくりとして「らくらく市」を開催
師岡	<ul style="list-style-type: none"> 「情報発信・地域活性化」「子育て」「住民交流」「見守り・支援」の4つのテーマごとのグループで推進。 年2回、推進委員会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントカレンダーの作成 イベント（男性の料理教室・健康麻雀）を通じた町の活性化と人材発掘 こども学習会の開催と他団体との連携 災害時要援護者の見守り

地区	推進体制	30年度の主な取組
大倉山	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協の部会活動を始め、まちの様々な活動を計画の推進と位置付けている。 ・月1回の推進会議で進捗を確認し、年1回振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の地区活動の継続、充実 ・大倉山夢まちづくり（支えあいまつり、さくらまつり等） ・「みどりアップ計画」による緑化活動の推進 ・東急電鉄からの緑化支援「みど＊リンク」の推進
篠原	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に活動報告会を開催。 ・1期計画から引き継ぐ交流分科会と情報分科会が事業を継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わがまち篠原」活動報告会の実施 ・障がい児余暇支援事業 ・ホームページの運営、活動団体へブログ立上げ支援 ・ひっとプラン連絡会の開催
城郷	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育て」「地域活性化」「見守り」の3分科会で推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5分科会を見直し3分科会に統合 ・子育てサロンの拡充、子どもの居場所の新規立ち上げ、定期実施 ・見守り活動の継続と他地区への展開支援 ・地域活性化のためのワークショップ実施、地域内の活動団体との連携の強化 ・災害時を含めた障がい児者への支援や、日々の障がい理解の促進
新羽	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育て」「健康づくり」「交流」「見守り・支援」「情報発信」の5部会で推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の活動支援を検討 ・ウォーキング活動の充実 ・「心の健康講座」の開催 ・「男の料理教室」2回開催 ・災害時要援護者支援の体制づくり ・イベントカレンダー発行
新吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康づくり」「高齢者支援」「子育て支援」「要援護者支援」の4部会で推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり活動の推進「やすらぎ塾」継続 ・「さがしてネット」の継続と充実、プレート更新・増刷（新吉田あすなろ地区と合同） ・子育てサロン「フリースペースよしだっこ」の継続、ブログ内容の充実化 ・災害時要援護者支援の拡充を目指し、独自の避難者カード作成、訓練での模擬使用
新吉田あすなろ	<ul style="list-style-type: none"> ・地区連合町内会定例会にあわせて推進委員会や打ち合わせを実施。 ・必要に応じて部会を設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じた仲間づくりと多世代交流、他地区との交流・協働の推進 ・「さがしてネット」の継続と充実、プレート更新・増刷（新吉田地区と合同） ・広報紙でのひっとプラン取り組み紹介 ・防災訓練における災害時要援護者支援推進 ・中学校における認知症啓発の継続 ・教員むけの福祉講座にて活動報告
高田	<ul style="list-style-type: none"> ・連合町内会、地区社協、地区子育てネットワークが中心にそれぞれの取組を推進。 ・推進委員会を年2回実施し、他必要時には役員会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者支援と日頃の見守り活動の推進 ・地域福祉活動団体懇談会の開催 ・子育てネットワーク会議の開催と「こどもまつり」開催 ・地域の活性化を目的とした「高田音頭」の普及活動

平成 30 年度 港北ほくほくフェスタ 区民フォーラム 報告書

- 1 日 時：平成 30 年 11 月 2 日（金）14 時～15 時 45 分
- 2 場 所：港北公会堂
- 3 参加者：約 480 名
- 4 タイトル：「知ってもらえたら心強い“障がい”のこと～本人の気持ち、家族の思い、支援者の願い～」

5 企画について

○今年度は、実行委員会形式で企画の検討を行った。

- ・実行委員：畔柳委員・原委員・本田委員（「ひっとプラン港北」策定・推進委員会）
- ・オブザーバー：大神田地域活動交流コーディネーター（城郷小机地域ケアプラザ）

○実行委員会での検討内容

回数 (開催日)	検討内容
第 1 回 (5/16)	・テーマとして関心が高いものは「災害」 ・レポーターは、身体障がい・精神障がい・発達障がいの当事者・家族等 ・参加者が日常生活のなかで自分ができることの気づきを得られること
第 2 回 (6/19)	・区民フォーラム後に、地域でミニフォーラムを開催するなど、小単位での取組を継続 ・有事に備えたつながりが必要
第 3 回 (7/23)	・情報を取りに行けない人もいる。どのように情報を伝えるか ・実行委員として、広報用のチラシの作成にかかわりたい ・チラシを地域のイベントや地域防災拠点訓練があるので配布したい
第 4 回 (8/27)	・チラシのデザインやフォーラムのタイトルの検討 ・Love フォトプロジェクトについて
第 5 回 (12/19)	・区民フォーラムの振り返り ・次年度の区民フォーラムについて

- 実行委員から「人形劇（こことも）の上演」「広報デザイナーの活用」「別会場での同時中継」「Love フォトプロジェクト写真展示」について提案され、検討の結果すべて実現した。
- 障がい者への配慮として、手話通訳から要約筆記へ変更した。

6 内容

今回の区民フォーラムでは、第 3 期港北区地域福祉保健計画の重点取組から「障がい児者と地域とのつながりづくり」をテーマに、参加者ひとりひとりが日常生活の中で出来る支援について考えてもらうため、こことも（区社協セーフティネット分科会啓発グループ）による障がいを理解するための人形劇を上演。また、当事者・家族、支援者から日常生活での困りごとや地域の方に知ってもらいたいこと等についてテーマトークを行った。

7 テーマトーク登壇者

◆コーディネーター：村岡 福藏 氏【横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター室長】

◆発表者：田辺 恵子 氏【視覚障がい当事者】

石井 泰代 氏【保護者】

宮本 いずみ 氏【生活支援センター】

森本 かおり 氏【精神障がい当事者】

田之畑 有美 氏【港北区地域子育て支援拠点どろっぷ】

8 発表内容（要旨）

【田辺氏】

- ・視覚障がいがあることにより日常生活を送る上で困難となっていることやどのような支援が必要か、支援をする際に本人に声をかけるときの注意点などについて。
- ・最近、外を歩いているときに「何かお手伝いしましょうか」と声を掛けてくれる方が多くいるので、嬉しく感じている。

【石井氏】

- ・現在、高校3年生で身体と知的に重い障がいがある長女について、家族で過ごしているときの様子や医療的ケアについて。
- ・地域の方には、車椅子で移動するには困難が多く、例えば地域の行事や地域防災拠点訓練に参加する場合に車椅子が通る動線や本人用のスペースが必要なことを知ってもらえると心強い。
- ・車椅子のまま乗車できるタクシーの紹介。

【宮本氏・森本氏】

- ・同じ障がいがある方を支援する活動をしており、その活動が自分にとっても喜びとなっている。
- ・自分でテンションのコントロールが上手くできず、とても疲れてしまい日常生活が困難になることがあるため、周りからはあたたかい目で見守ってほしい。
- ・ヘルプマークを多くの人に知ってもらい、理解をしてほしい。

【田之畑氏】

- ・親の願いとしては、障がいのある子どもが地域で暮らしていることを知ってほしい。
- ・障がい特性から地域の行事等に行きたくても行けないという現状がある。
- ・地域での行事等では、当事者の方の参加を促してもらい、互いの現状を聴く機会があるよい。地域全体でそうした機会を重ねていくことが本当の意味での障がい理解に繋がっていくと考えている。

【コーディネーターまとめ】

- ・障がいのある方については、それぞれの障がい特性を踏まえた個別性の高い配慮が求められていることを、皆様からの話しから改めて学ばせていただいた。
- ・当事者や家族が地域で障がいがあることをカミングアウトすることは、私たちが想像する以上に勇気があること。そのことを理解いただき、地域の皆様の方から当事者や家族への声かけをお願いしたい。
- ・カミングアウトできる関係づくりを私たちの側から進めていきたい。障がいについての社会の理解は十分ではない。その中で、当事者や家族は様々な思いや痛みを抱えている。
- ・地域の中で様々な障がいのある当事者や家族と出会い、心に届くつながりが生まれ、広がって、互いに心豊かに暮らせる港北区になるように、さらに歩みを進めていきたい。

9 アンケート結果（76名）より

【講演会後の意識の変化】「変わった」「多少変わった」と回答した者：68名（89%）

- ・直接手を差しのべる事でもなくても知る事も支援につながる。
- ・人形劇で障害（目や自閉症児の事）も少し理解できました。
- ・障がい者の方や家族の思いが少しわかった、想像以上の困難な実情がわかった。
- ・障害には個人差がある。個々への理解と対応が必要。
- ・学ぶチャンスがあり感謝、勉強になった、貴重な機会になった。
- ・障がい者がしてほしい事と私が思っている事が違う事がわかった。
- ・災害時は身近な地域でのつながりが大切（真価を発揮する）だということを認識した。
- ・地域で共に暮らして行くための配慮と理解がいかに必要か改めて考えるきっかけになった。

【地域でできること】

- ・お互いの交流の場を持つ、話を聞く場・関わる場を設ける、挨拶・顔見知りになる
- ・地域行事（運動会、祭り、その他様々なイベント）の中で障害者視点サイドの設定を考える。
- ・民生委員としてのかかわりを持つ、深める。
- ・もっとこうした当事者による発信の場があること。
- ・地域の前に学校の教育の中で小さい頃から学んでいってほしいと思う。

【自分ができる支援は何か】

- ・関心を持つことからかと思う。広い心を持つ、見守る、傾聴すること。
- ・今日、学んだことを生かして街などで声かけできたらいいと思う。
- ・町会における町会員への理解をすすめる。
- ・当事者が発信したり、話し合う場づくり。
- ・声かけや情報をお届けすること。
- ・障がい者についてもっと知る事。学ぶ事だと感じる。

【メッセージ】

- ・ここともさん、とてもわかりやすい人形劇でした。ぜひ子供達にも見せたいと思います。田辺さん、とてもわかりやすいお話でした。視覚障害の人に声をかけてみようと思いました。
- ・小学、中学校でDVD見せてほしいです。人形劇を通して理解しやすく身近に感じます。
- ・当事者の方がご自分の言葉でメッセージを伝えて下さることはとても大変だと思いますが、想いや感じていらしゃることがよく伝わります。
- ・自分たちからも現状を変えていきたいという思いがとても伝わってきました。私が感じていた障害者の方のイメージよりもっと前向きな姿に地域の活動の中にもっと入ってきてもらえるよう協力させていただきたいと思いました。参加してとても良かったです。

10 Love フォトプロジェクトについて

- ・「障がいのある子とご家族の幸せオーラ写真展」を区役所2階階段踊り場等で開催。
- ・写真を見ての感想
「笑顔があふれているとても良い写真ばかりですね。親の愛は深く温かいと感じました。」
「お子さんの笑顔もちろんステキですが、その子を支えるご両親の輝く笑顔に感動致します。これからも親子でステキな人生を!!」

11 次年度について

- ・10月25日（金）港北公会堂
- ・区民フォーラムテーマ：共生社会について（仮）

1 調査方法の概要

港北区地域福祉保健計画（5 か年計画）の推進のため、港北区民の健康づくりや福祉に関する意識や行動について基礎的な状況を調査し、区民の特性に応じた取組や事業展開を図ることを目的として調査を実施しました。

（1）調査対象

港北区に居住する 20 歳以上の男女に対し、インターネットと郵送によるアンケート調査を実施

（2）回収数

1,673 件（インターネット 1,044 件、郵送調査 629 件《回収率 52.4%》）

（3）調査期間

平成 30 年 9 月 8 日（土）～平成 30 年 9 月 21 日（金）

（4）分析方法

統計分析は横浜市衛生研究所が行い、統計学的検定は χ^2 検定および Kruskal Wallis の検定を用い、 $p < 0.05$ で有意差ありとした。

2 調査結果概要

（1）回答者属性

- ・男女比はほぼ同率、年代は 70 歳代以上が最も多い。
- ・性年代別で見ると 50 歳代で男性より女性が約 6 ポイント少ないが、その他の年代ではほぼ同率。
- ・居住歴では、40 年以上と 10 年以上 20 年未満と回答した割合が多く、2 割ずつであった。
- ・住宅の形態は持ち家が約 7 割
- ・世帯構成は 2 世代が全体では 4 割以上、20～50 歳代ではそれぞれ 5 割を超えているものの、60 歳代以上では夫婦のみ世帯が 4 割以上となっている。
- ・就業状況では、会社員などの常勤労働者が 4 割以上だが、非常勤を含めると全体の 6 割が何らかの形で就労している。男女別では、男性の約 6 割は常勤労働者、女性の約 4 割は主婦と回答している。60 歳代では常勤労働者は大きく減少するが、5 割近くが何らかの形で就業している。

（2）調査結果

【区民の多くは「ひっとプラン港北」を認知していない】

- ・「ひっとプラン港北」について、「内容をよく理解している」「一部知っている」「名前を聞いたことはある」を合わせても、その認知度は 2 割に満たない。

【ひっとプランの取組の中で重要なのは「人と人とのつながりづくり】

- ・特に必要と考える取組として、全体としては「人と人とのつながりづくり」「身近な場所で相談・支援が受けられる環境整備」と回答した割合が 3 割を超えている。
- ・地域住民の関係づくりのために大切なことについて、「ひとりひとりが隣近所に関心を持つこと」と回答した割合が多い。特に 20 歳代女性の 8 割がこのような回答をしている。
- ・地域活動への参加経験は「祭りや運動会などのイベント」が全体の 3 割を超えており、今後参加したいものは「趣味・教養・スポーツなどのサークル」と回答した割合が 3 割である。60 歳代男性は、イベント、高齢者支援、子育て支援以外の活動について、今後の参加に積極的な意向を持っている。

- ・地域活動から得られたものとして、全体的には「地域社会への貢献」と回答した割合が多い。性年代別では、20～40歳代男女は「楽しさ」を、50歳代男女は「地域社会への貢献」を60歳代以上男女では「新たな友人」「新たな知識・経験」と回答した割合が多い。
- ・地域活動に参加する条件として、「気軽に」「身近に」参加できることと回答した割合が多い。特に60歳代以上では活動場所が近くにあることが重要と回答する傾向がある。

【高齢者・障がい児者への支援の必要性は全世代が認識している】

- ・障がいの有無に関わらず参加できるまちをつくるためには、「障がい児者が地域の行事に参加できる環境が整っている」と回答した割合が多い。
- ・高齢者への日常的な支援として必要なこととして、「見守り・安否確認」と回答した割合が多い。
- ・住みやすい地域づくりのために重要な取り組みとして、ライフステージにより重要と考える取組の違いがあるものの、全年代を通して「高齢者世帯の見守り・安否確認」が重要と考えている。
- ・隣近所で困っている方への手助けや見守りに「現在携わっている」「携わった経験がある」と回答したのは、全体の1割程度であり、その内容は「話し相手・相談相手」「ゴミ出し・買い物・草むしり」「高齢者や障がい者への安否確認の声かけ」の順に多い。

また、今後自分ができる手助けとして「話し相手・相談相手」「高齢者や障がい者への安否確認の声かけ」と回答した割合が多く、ほぼ全年代男女の3割が「要援護者の災害時の安否確認や避難の手助け」と回答している。

【子どもが「安心」できる居場所が求められている】

- ・地域ぐるみで子どもを見守るために、「子どもたちが安心して集える居場所」と回答した割合が最も多く、次いで「子どもたちへの声かけ」が必要だと考えている。

3 今後の取り組み方針

- (1) 「ひっとプラン港北」の取り組みの周知
- (2) 人と人とのつながりづくりの推進
 - ・地域活動への参加促進のための条件整備
 - ・地域活動への参加意向の高い集団への積極的な働きかけの促進
 - ・人材発掘・育成の講座等における「地域貢献」の標榜
- (3) 障がい児者に関する理解が広がる環境づくり
- (4) 高齢者や障がい児者支援の仕組みづくりの促進
- (5) 子どもの居場所や子どもを含めた多世代交流の居場所づくりの支援

第3期「ひっとプラン港北」平成31年度の方向性

1 平成31年度の取組

第3期計画の評価と第4期計画の策定

次年度は、第3期「ひっとプラン港北」の進捗評価に基づき、第4期「ひっとプラン港北」の策定を開始します。第3期「ひっとプラン港北」の進捗評価では、重点取り組みについて質的・量的評価を実施します。また、第4期「ひっとプラン港北」の計画立案に向けた検討部会を立ち上げ、計画骨子を作成したのち、関係団体のヒアリングを行います。

地域共生社会の推進に向けて

本市の第4期計画で進める「地域共生社会の実現」に向けて、31年度は、様々な立場や背景を踏まえた多様性の理解を広げ、誰もが同じ地域住民として受け入れられる環境づくりを進めます。

※地域共生社会…制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と地域社会にある様々な社会資源が世代や分野を超えてつながり、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

人材の発掘・確保のための取組

人材の確保については、各地区の共通課題となっています。区民意識調査の結果、明らかになった地域活動への参加意向が高い層に対して積極的なアプローチを行っていくとともに、参加意向がある住民が参加・協力しやすい活動の仕組みづくりについて検討します。

スケジュール（案）

時期	取組	内容
4月	地区計画ニュースの回覧	地区の取組等、推進の状況を広く地域にお住まいの方に周知します。
8月	第1回第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会	31年度の具体的な取組についてご提示します。協働しながら進める事業について意見交換のうえ、方針を確定します。また、第4期「ひっとプラン港北」の骨子案についてご提示します。
9月～12月	検討部会の開催	第4期「ひっとプラン港北」検討部会を開催します。
	関係団体ヒアリング	第4期「ひっとプラン港北」の策定に向けて、関係団体にヒアリングを行います。
10月25日(金)	ほくほくフェスタ	福祉保健活動の取組の発表と共有の場として、社会福祉大会と区民フォーラムを開催します。
11月頃	地区連絡会	他地区の計画推進状況や取組を共有します。推進における課題について地区を越えて討議し、各地区の取組に活かします。
2月～3月	第2回第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会	31年度の報告と32年度の取組の方向性についてご報告し、課題となっていることについて意見交換を行います。
3月	地区計画ニュース発行	各地区の取組の振り返りと次年度の取組を確認します。

「ひっとプラン港北」次期計画策定に関わる検討部会及び関係団体ヒアリングの実施について

1 趣旨

次期計画の策定にあたり、骨子案について、そのあるべき姿や期待される具体的な取組内容の意見交換を行う場として、「ひっとプラン港北」策定・推進委員会に検討部会を設けます。

あわせて、当事者の声を反映させることを目的に、関係団体ヒアリングを実施します。

2 実施方法

検討部会については、テーマ別部会とはせず、骨子案を基に検討を行います。

平成31年度中に2～3回の開催を予定しています。

ヒアリングについても、平成31年度中に実施します。

3 学識アドバイザー

骨子案の作成から学識アドバイザーに助言をいただきながら、次期計画策定を進めていきます。

聖徳大学心理・福祉学部社会福祉学科 教授 豊田 宗裕 氏

4 検討委員の構成

構成は策定・推進委員会とは別に選出したメンバーで構成します。

分野	所属
地域・地区社協	地区社会福祉協議会分科会
	地域ケアプラザ所長
	地域ケアプラザコーディネーター
区民児協	港北区民生委員児童委員協議会 民生委員・児童委員
子育て分野	港北区民生委員児童委員協議会 主任児童委員
障がい分野	基幹相談支援センター、地域活動ホーム など
	生活支援センター
高齢分野	介護予防・生活支援サービス補助事業（サービスB）実施団体
生活困窮	楠の木学園 など
保健活動	港北区保健活動推進委員会

5 ヒアリング団体

- ・社会福祉協議会分科会
(障害者セーフティネット分科会、ボランティア・市民活動分科会、保育所分科会、在宅福祉分科会)
- ・あみねっと
- ・NPO 法人びーのびーの
- ・成年後見サポートネット

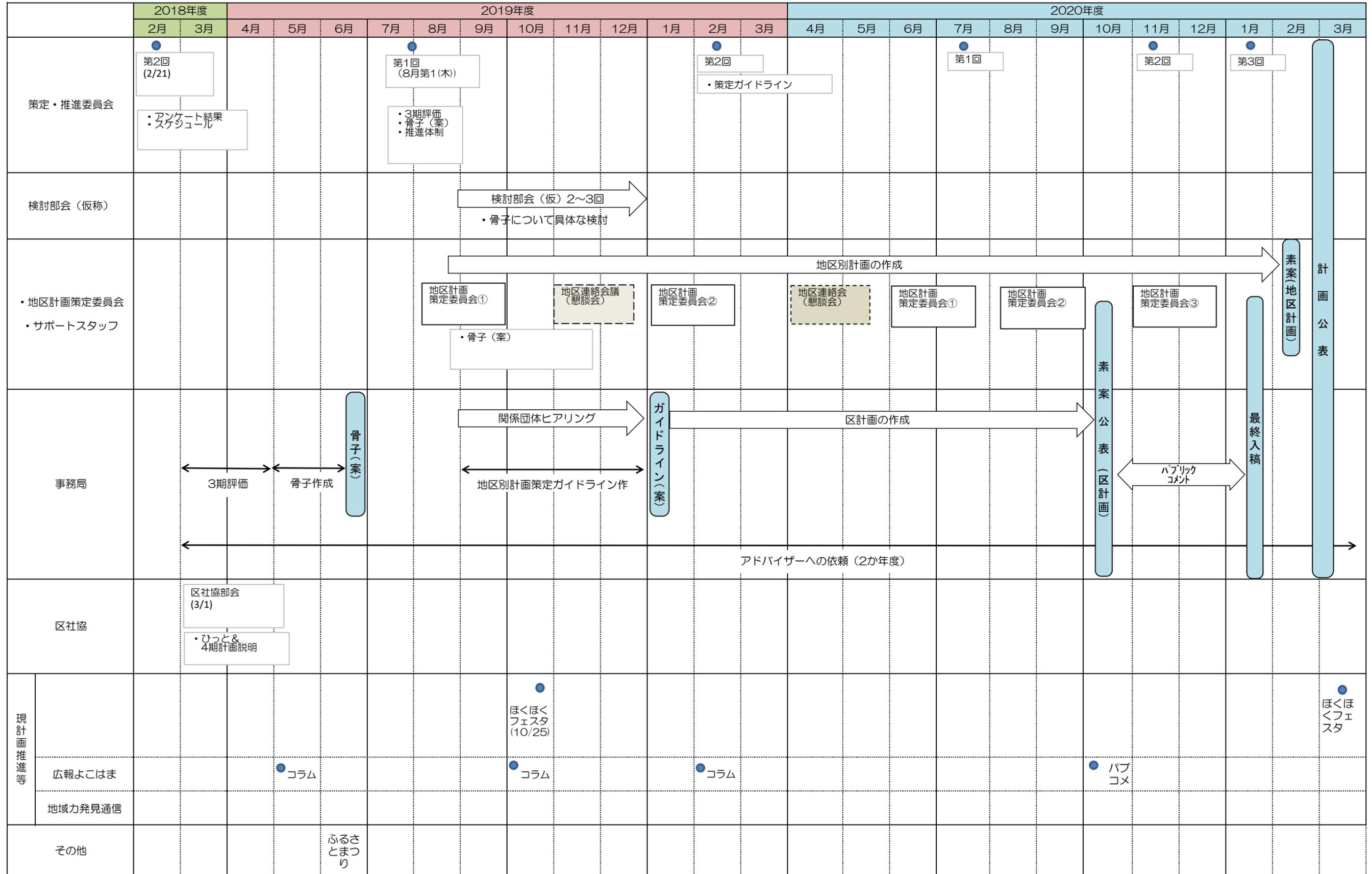
第 3 期計画推進スケジュール（平成 28～32 年度）

31 年 2 月改訂版

年度	月	区全体計画	地区計画
平成 28 年度	4 月	計画周知	
	6/2	第 1 回策定・推進委員会	
	10/28	ほくほくフェスタ	
	11/29		区計画推進委員会連絡会議
	3/2	第 2 回策定・推進委員会	
		計画推進状況の振り返り・地区計画ニュース発行	
平成 29 年度	10/26	ほくほくフェスタ	
	11/12	地域活動のための意見交換会	
	11/18		
	11/29		地区計画推進委員会連絡会議
	2/15	第 1 回策定・推進委員会	
		計画推進状況の振り返り・地区計画ニュース発行	
平成 30 年度	6 月頃	第 1 回策定・推進委員会	
	8 月頃		区民アンケート ↓ 中間振り返りに向けた データの収集
	11/2	ほくほくフェスタ	
	11 月		地区計画推進委員会連絡会議
	2/21	第 2 回策定・推進委員会	
		計画推進状況の振り返り・地区計画ニュース発行	
平成 31 年度	8 月	第 1 回策定・推進委員会	
	10 月	ほくほくフェスタ	地区計画推進委員会連絡会議
	3 月	第 2 回策定・推進委員会	地区計画検討・策定
		計画推進状況の振り返り・地区計画ニュース発行	
平成 32 年度	7 月	第 1 回策定・推進委員会	
	10 月	ほくほくフェスタ	地区計画推進委員会連絡会議
	11 月	第 2 回策定・推進委員会	
	3 月	第 3 回策定・推進委員会	
		計画素案決定・区民意見募集 ↓ 次期計画決定	

第4期「ひっとプラン港北」策定スケジュール

2019.1.7現在



特集

港北区子どもの居場所一覧

*港北区社会福祉協議会では、地域の子どもの居場所づくりを支援する取組を行っています。

*区内で活動している活動の一部をご紹介します。

※ここでいう子どもの居場所とは、「子どもがひとりでも来られ」「見守る大人がいる」「継続的な居場所・活動」を指します。

※子どもに限定しない活動も含まれています。

※掲載の許可を頂いた活動のみ掲載しています（一部有料）

お問い合わせ

港北区社会福祉協議会

【TEL:547-2324】



日吉

フリースペース

活動名：鯛ヶ崎公園プレイパーク
住 所：日吉本町5丁目62 鯛ヶ崎公園
開 催：火～木曜日 第2・4の土・日曜日
10:00～17:00
対 象：どなたでも
主 催：鯛ヶ崎公園プレイパーク管理運営委員会

日吉

フリースペース

活動名：こどもの本のみせ ともだち
住 所：日吉本町2-44-10
開 催：平日 11:00～17:00
土曜日 13:00～17:00
対 象：どなたでも
主 催：こどもの本のみせ ともだち

日吉

フリースペース

活動名：日吉6こうプレイパーク
住 所：日吉6-6 日吉六丁目鏡ヶ淵公園
開 催：第2・4水曜日 14:00～17:00
対 象：どなたでも
主 催：日吉6丁目鏡ヶ淵公園プレイパーク

日吉

地域食堂

活動名：下田ふれあい食堂（子ども食堂）
住 所：下田町4丁目1-1 下田地域ケアプラザ
開 催：毎月1回 17:00～19:30
対 象：親子でも可
主 催：下田地区民生委員児童委員協議会

網島

フリースペース

活動名：網島公園
こどもログハウス「モッキー」
住 所：網島台1番地 網島公園内
開 催：4月～9月 9:00～17:30
10月～3月 9:00～16:30
対 象：小学生・中学生・幼児（保護者の付き
添いが必要）※小学生優先
主 催：一般財団法人 こうほく区民施設協会

大曽根

学習支援

活動名：バンブー学び塾
住 所：大曽根2丁目34-26
開 催：月曜日から土曜日 11:00～19:00の間
概ね2時間程度の個別対応
対 象：子ども、若者、保護者
主 催：NPO法人バンブー学び塾

樽

フリースペース

活動名：みんなのキッチン
住 所：樽町1丁目22-46
開 催：第4木曜日 14:00～16:00
対 象：どなたでも
主 催：樽地区社会福祉協議会

樽

地域食堂

活動名：樽町なごみ食堂
住 所：樽町1丁目22-46樽町地域ケアプラザ
開 催：毎月1回 17:30～19:30
※現在プレ実施中 H31.2月より本番
対 象：樽町地区に在住の方
主 催：樽町地域食堂実施委員会

菊名

学習支援

活動名：港北こども学習会
住 所：菊名4丁目4-1 菊名コミュニティハウス
開 催：第2・4日曜日 13:00～16:00
対 象：原則として、小学1年生～中学3年生
（高校生以上については要相談）
主 催：港北子ども学習会

菊名

地域食堂

活動名：ぐりぐら
住 所：篠原北1-2-19
開 催：月～金曜日 18:00～（祝日休み）
対 象：どなたでも
主 催：NPO法人フーズマイルぐりぐら

師岡

学習支援

活動名：師岡こども学習会
住 所：師岡町329 師岡町会館
開 催：第3日曜日 13:00～16:00
対 象：小学生
主 催：師岡地区社会福祉協議会

師岡

フリースペース

活動名：サロン師岡
住 所：師岡町329 師岡町会館
開 催：第1～3月曜日 13:00～15:00
対 象：どなたでも
主 催：師岡ひまわり

地域食堂：こどもが1人でも利用でき、無料または低額で食事を提供する場。

学習支援：学習支援だけでなく、様々な体験や交流などを通じた居場所づくり、健全な成長・発達に寄与するものもあります。

フリースペース：厳密な定義はありませんが、子どもを学校外で受け入れる民間団体のうち、遊びや体験活動の要素が強いところを指します。

その他：上記の категорияに属さない取り組み。

大倉山

地域食堂

活動名：街カフェ大倉山ミエル
 住所：大倉山4-36-26 (旧ぎやるりーげん)
 開催：月～金曜日 10:00～15:00
 対象：どなたでも
 主催：NPO法人街カフェ大倉山ミエル

大倉山

地域食堂

活動名：MOGU
 住所：大倉山3丁目5-29
 花屋&カフェ ラブティフルール
 開催：木曜日 17:00～20:30
 対象：どなたでも
 主催：ごはん屋「MOGU」

大倉山

地域食堂

活動名：大倉山みんなの食堂
 住所：大倉山4-36-26 大倉山ミエル
 開催：第3火曜日 17:30～19:30
 対象：どなたでも
 主催：港北区に子ども食堂を作る会

大倉山

地域食堂

活動名：たべ～るば大倉山
 住所：大倉山3丁目57-3 だるっぷ
 開催：月1回 17:30～19:30
 対象：どなたでも
 主催：NPO法人びーのびーの

大倉山

フリースペース

活動名：大倉山みんなの居場所
 住所：大倉山4-5-4 太尾防犯拠点センター
 開催：10:00～18:00
 (年末年始、お盆等を除く)
 対象：大倉山地区にお住まいの方
 主催：大倉山地区社会福祉協議会

大倉山

フリースペース

活動名：太尾公園つちのこプレイパーク
 住所：大倉山7丁目40-1 太尾公園
 開催：第2金曜日 (8月お休み 雨天中止)
 3～10月 10:30～17:00
 11～2月 10:30～16:30
 対象：どなたでも
 主催：太尾公園つちのこプレイパーク運営委員会

新横浜

地域食堂

活動名：こどもレストランるるば
 住所：新横浜2-4-4アソルティ新横浜5F
 浜流 (新横浜個室居酒屋)
 開催：月1回 12:00～14:30
 (料理提供時刻13:30まで)
 対象：どなたでも
 主催：株式会社TUNE UP

新横浜

地域食堂

活動名：おるた家族食堂
 住所：新横浜2丁目8-4
 オルタナティブ生活館
 4F (調理室)、6F (和室)
 開催：月2回 (年22回) 17:00～
 対象：どなたでも
 主催：NPO法人フォーラム・アソシエ

篠原

その他

活動名：COCOしのはら
 住所：篠原町1077 ※地域福祉交流スペース
 開催：月～金曜日 9:30～15:00
 対象：どなたでも
 主催：NPO法人びーのびーの

城郷

フリースペース

活動名：ホッとカフェ
 住所：小机町2468
 開催：木・日・祝日以外 11:00～17:00
 対象：どなたでも
 主催：ホッとカフェ運営委員会

城郷

フリースペース

活動名：たまりBAこづくえ
 住所：小机町2484-4城郷小机地域ケアプラザ
 開催：毎月1回 15:30～17:30
 対象：小学4年生以上
 主催：小机地区こどもの居場所事業実行委員会

新羽

地域食堂

活動名：ダイニング28
 住所：新羽町1240-1新羽地域ケアプラザ
 開催：毎月28日 平日 18:00～20:00
 土日祝 12:30～16:00
 対象：どなたでも
 主催：チームおいもほり

新吉田

地域食堂

活動名：みんなの食場@新吉田本町会館
 住所：新吉田1-61-22 (新吉田本町会館)
 開催：毎週水曜日 17:00～19:30
 対象：どなたでも
 主催：みんなの食場@港北

高田

フリースペース

活動名：ふらっと高田
 住所：高田東4-12-27
 開催：月・火・木・金曜日 10:30～15:30
 対象：どなたでも
 主催：高田地区社会福祉協議会



平成 30 年度「ひっとプラン連絡会議」

(地区計画推進委員会連絡会議)

日時：平成 30 年 11 月 29 日
10 時～12 時

参加者：計 41 名

[地域] 22 名 (綱島地区欠席)

[区役所] 10 名 [区社協] 9 名

〔情報交換の内容〕

- ①地区の取組の情報共有
- ②計画の推進に向けて、工夫したことや変更したこと
- ③今後、取り組みたいこと
- ④各グループからの発表 他



◆地区の取組の情報共有

4 グループに分かれて情報共有を実施。各グループの話し合いの結果を全体で共有。

◆計画の推進に向けて、工夫したことや変更したこと

〔大倉山〕

新しい内容の検討にむけて、アンケートを実施。継続にむけて、民生委員や町会と連携を図っている。地区としては「横浜みどりアップ計画」のもと力をいれていきたい。

〔菊名〕

生活安全安心メモを発行し、高齢者に活用してもらうために目立つ蛍光黄色で作成し、家庭で手に取れる場所においてもらえるように穴をあけた。生活安全安心メモを更新、高齢者以外へも周知する方法を検討している。

〔城郷〕

防災訓練の際に障害者施設の方たちの参加、協力で地域住民の障害理解への一歩としたい。推進体制の変更（部会の統合）と取り組み内容の見直しを行った。

〔樽〕

若い人はネットから情報を得るので、チラシやポスター、掲示板にQRコードを掲出して情報発信をしている。HPへのアクセス増加を図りたい。地域食堂を来年2月に立ち上げ予定。

〔師岡〕

慶応大学生と連携して影絵企画実施。12 月から町内会館にて障害者施設の作業所のパンを販売開始予定。防災については、トレッサとの連携を模索してきた。

〔高田〕

年 2 回の推進委員会で、それぞれの団体のネットワークづくりに取組んでいる。高田音頭の復活に向けて、学校と連携して子どもへの普及啓発を実施した。

〔篠原〕

担い手を引き継ぐ人がいないのが課題である。年2回実施しているひっとプランの会合を利用し、改善していきたい。現在は第4期のひっとプランについて先を見据えて考えているところ。

〔新羽〕

情報発信部会ではイベントカレンダーをカラー印刷で発行。また町内の掲示板のイベントカレンダーの掲出位置を固定したい。地域食堂“ダイニング28（にっぱ）”を実施した。

〔新吉田〕

部会を3期からは4部会となり実施。「さがしてネット」のプレートは個人用・商店用の2種類を作成。個人用は玄関に掲げてもらい、一人一人ができることをやれるようにしている。

〔新吉田あすなろ〕

チラシや発信の方法を工夫していきたい。掲示板をいかに見てもらえるか検討したい。認知症理解促進の取組「さがしてネット」のプレートを、2連合が協働して作成した。

〔日吉〕

認知症予防カフェや子ども食堂、時期限定のイベントカレンダー作成、子育てサロン開設などに新たに取り組んだ。

〔大曽根〕

担い手を呼び込むこと、防災訓練の充実が課題と感じている。これからのことを考えて、若い世代に参加してもらわないといけない。

◆今後、取り組みたいこと

- ・住民に**当事者意識を持ってもらう**ことを意識して取り組んでいきたい。
- ・人材の確保、人材の確保に向けて、**新しい人が活動してくれる仕組みづくり**
- ・子どもの居場所や学習会等の**居場所づくり支援** ・**災害時要援護者支援**
- ・町内会館で**障害者製品の販売**を支援 ・**中学生の協力促進** ・**防災マップ**の作成
- ・買い物支援のための**移動手段の検討** ・災害時安否確認のための白タオルの普及啓発
- ・さがしてネットの登録者の増加 ・三世代交流サロンの参加促進
- ・「さがしてネット」や「高齢者110番」のような**表示の検討** ・団体の**ネットワークの強化**
- ・**無理をしない**ことが大切。風呂敷を広げすぎず、時には思い切って辞めることも必要。
- ・**手にとって見られる広告媒体**の効果が再注目されており、積極的な活用を検討する。
- ・新たな確保のための周知は掲示板だけでは不十分。新しい方法の検討。

ひっとプラン港北 日吉地区ニュース

地区計画目標



光と活力に満ちあふれる日吉

～一つひとつの活動がひかり、大きな活力に発展するまち～

◇わたしたちが目指すまち

- みんな元気で笑顔であいさつするまち 日吉
- ひろめよう笑顔たやさず明るいまち 日吉
- 新しいと なつかしさが繋がるまち 日吉
- みんなでたすけあい 災害をのりきるまち 日吉
- 住んでよかったと思えるまち 日吉



30 年度の取組

☆各町の取組ニュース

【日吉町】

親子が自由に過ごせるサロン「ひよっし」を、30年11月から日吉町会館でオープンしました。

【日吉宮前】

31年3月、「昔遊び」のイベントを開催！手裏剣、割りばし鉄砲やコマ廻しなど懐かしい遊び満載です。

【箕輪】

要援護者に関する複数の名簿を統合・データ化しています。今後この名簿をどう活用するか検討していきます。

【下田】

秋のイベントシーズン限定で「秋のイベントカレンダー」を初発行。また、30年秋から「下田ふれあい食堂」を大好評開催中です。

【日吉本町】

「障がい児者のよりどころ ふれんど」主催で保護者と支援者の交流会を開催し、災害時における地域のつながりについて情報交換しました。

『光と活力』福祉実践活動発表会開催！！

於：平成31年1月27日【慶應義塾大学 協生館】

- 1) 日吉本町地区 【安全な道とAEDについて】
- 2) 日吉宮前地区 【水害に対しての一時避難場所】
- 3) 日吉町地区 【防災マップの作成について】
- 4) 箕輪地区 【急斜面の防災と避難】
- 5) 下田地区 【防災から福祉を考える】



各町のマップづくりを目指したまち歩きについて、手話通訳を導入してフォーラムを開催しました。日吉台西中学校演劇部の「朗読劇」も楽しく素晴らしいものでした。

31 年度の取組

第3期計画5年間の共通テーマとして掲げた『防災から福祉を考える』の取組が4年目を迎えます。

これまでの3年間で集めてきた町ごとの情報は、AED、危険な道、高い塀、3階建て以上の建物、一時避難場所などです。これらを地図に落とし込んだ防災マップの作成に取り組む予定です。作成した防災マップの活用も検討していきます。

◎各町で特徴のある取組を進めています。様々な行事に参加し、地域とつながりましょう！！



ひっとプラン港北 網島地区ニュース

地区計画目標

<未来へ 夢 育む これからのまち 網島>

◇わたしたちが目指すまち

○みんなが育てあい育ちあい 愛着のあるまち 網島

○だれもが元気で優しく 住み続けたいまち 網島

○防災防犯で安心安全 たすけあいのまち 網島

30 年度の取組

網島地区では3つの部会に分かれて取組みを推進しています。各部会の取組みを紹介します。

子育て支援部会



地域の子育て情報を掲載した「つなしま子育て地域情報」を発行しました。

また、地域で子育て支援に関わる団体や幼稚園、保育園等の施設が集まり、地域の子育ての様子について意見交換を行う「子育てネットワーク会議」を開催して3年目となりました。

網島地区連合として災害時要援護者支援に取り組むための連絡会を開催。自治会町内会の代表者が集まり、支援の内容や取組状況などを共有し、情報交換しました。**防災カード・防災袋**の更新を行いました。

見守り・支援部会



防災袋

交流・情報部会

「ふれあいサロン西」の様子



地域への理解を深めるための情報発信（ホームページ・広報紙「網島ひっとプランニュース」の発行）や**高齢者サロン（ふれあいの家・ふれあいサロン）**など住民同士の交流のきっかけづくりに取り組んでいます。

31 年度の取組

【交流・情報部会】

情報発信としてホームページの随時更新と、網島ひっとプランニュースの発行、高齢者サロンを引き続き開催します。今後も様々な情報をお届けする予定です。

【子育て支援部会】

網島をふるさとと思ってもらえる地域づくりを目指すために、「子育てネットワーク会議」を開催し、地域の子育て支援のネットワークを広げていきます。また、地域で出来る子育て支援について、一つ一つ実行していきます。

【見守り・支援部会】

連絡会を継続して開催し、課題の検討や各自治会町内会で行っている取組について情報共有することで、災害時要援護者支援を網島地区全体で推進します。

網島ひっとプランニュース



ひとつプラン 港北 大曽根地区ニュース

◇わたしたちが目指すまち◇

いつまでも住みたいまち 大曽根
 交流の盛んなまち ささえあいのあるまち
 安全、安心なまち



OSONE TOWN
ハートフル大曽根

2018 年度主な取組

ハートフル大曽根ホームページ <http://www.heartful-osone.com/>

イベントのお知らせ・報告など、大曽根地区の情報を掲載しています。

イベントカレンダー・ニュース大曽根



6月	7月	8月
1230 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	1418 親子ふれあい体験学習 夏休み	4100 大曽根小学校 運動会
1918 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	1918 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	1918 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
2418 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2418 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2418 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
2918 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2918 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2918 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
3118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	3118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	3118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
9月	10月	11月
2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	1418 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
1月	2月	3月
5118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
5118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
5118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
5118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り
5118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り	2118 大曽根地区社会福祉協議会 夏祭り

12月・1月 ハートフル大曽根 ザ・ニュース大曽根

平成30年12月・平成31年1月の行事

大曽根小学校地域防災拠点訓練の報告

港北区制80周年記念 第34回 港北駅伝大会

大曽根自治連合会 新年の日程

2019 年度の取組計画

大曽根の情報をより多くの住民に届けます

- * 盆踊り・健民祭・地域防災拠点訓練・福祉まつりなどのイベントを通して、より多くの住民の交流をひろげ、災害時の共助につなげます
- * 高齢者向け、子ども向けのボランティア活動（ささえあいネットワーク・配食サービス・昼食会・高齢者サロン・趣味の会・赤ちゃん会・乳幼児サロンなど）の情報を届けます

各ボランティア活動を支援し、新たな担い手につなぎます

- * ボランティア活動を広く知ってもらい、理解を深めます
- * 担い手が参加しやすい仕組みづくりに取り組みます

ひっとプラン港北 樽地区ニュース

地区計画目標

<思いあいのまち 樽町>

◇わたしたちが目指すまち

人の輪がひろがり、顔が見えるまち
みんなが助け合い、心のふれあうまち
明るく挨拶、声をかけあう住みよいまち



情報

子育て

見守り

交流

30年度の取組

ホームページでは、なるべく多くの写真をスライドショーにして、イベントの様子が伝わるように工夫しました。また、「地域食堂」のデモンストレーションの様子を発信しました。

「地域食堂」の開催に向けて、子育て世代の皆様、高齢世代の皆様に運営等についてご意見を伺い、カレーライスに限定した「樽町なごみ食堂」を立ち上げることになりました。

若い世代の転入者が多いですが、高齢者も増えています。地域の民生委員が中心となった高齢者の見守り活動や子育て世帯や支援が必要な方の理解を深める活動を行いました。

樽町移動動物園を毎年開催しており、参加する子どもが多く驚いています。会場でひっとプランや町内会のチラシなどを配布して、活動を知ってもらい交流を進めることが出来ました。

31年度の取組

「樽町ホームページ」をより多くの方に知っていただくための取組を進めていきます。また、情報発信の担い手を増やすことを目指して活動していきます。ぜひ、下記のホームページをご覧ください。

31年2月より「樽町なごみ食堂」を開始。月1回カレーを食べながら、子どもから高齢者までは幅広い世代同士の交流を進めていきます。また、地域で行っている子ども支援等の取組を周知していきます。

災害が発生した時の助け合いだけでなく、常日頃から顔の見える関係づくりが大切です。誰もが住みやすい樽町をつくるため、地域の方々と支え合っていくような活動に取り組みます。

昨年度より「歩こう会」の歩く時間を半日程度に変更したところ、参加者が増えました。今年度も継続して皆様の健康のお役に立ち、歩くことを通じて、人と人との交流が進むことを願っています。



ひっとプラン港北 菊名地区ニュース

地区計画目標

みんなで支えあうまちづくり 菊名地区

わたしたちが目指すまち

- 子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち
- 健康づくりと交流で元気に暮らせるまち
- 安全安心に暮らす環境が整うまち

30年度の取組

全地区 共通

- 民生・児童委員が中心となり、「スリー^{エー}A」のさらなる充実をはかりました。

スリーAで元気！
あかるく
あたまをつかって
あきらめない



- 改訂した「生活安全安心メモ」を、ひとり暮らし高齢者等に配布しました。

持病やふだん飲んでいる薬の記入欄も追加！

篠原北

- 散歩や買い物等の途中でひとやすみ…設置したベンチは、住民たちの交流の場にもなっています。



菊名北

- デザインを一新した「高齢者110番」のステッカー。住宅や商店街等へ掲示し地域の見守りの輪を広げています。



来年度の取組

- **生活安全安心メモ** 配布後のフォローアップをすすめます。

～メモには自分の緊急連絡先等を書き込むだけでなく、暮らしに役立つ便利な情報も満載！～

- 「スリーA」は誰でもできる運動。認知症予防や健康づくりに力を入れていきます。

～運動は、みんなでやれば効果も倍増！ 交流も大切に楽しく活動を継続していきます～

- 「高齢者110番」を地区全域に広げ、**見守り支援の輪づくり**を検討します。

～いざという時に駆け込める場があると安心。見守りにもつながります～

ひっとプラン港北 師岡地区計画ニュース

地区計画目標

〈わが町師岡－未来につなげる・住みよいまちづくり－〉

◇わたしたちが目指すまち

- ・「こんにちは」と挨拶できるまち 師岡
- ・みんなの知恵を生かして進むまち 師岡
- ・あたたかく地域が見守る子育てのまち 師岡
- ・こまったら相談してよと言えるまち 師岡

30年度の取組

・魅力的な地域活動

地域活動の魅力を高め、多くの住民の参画を促しました。

地域にお知らせ広報誌「イベントカレンダー」の発行を行いました。

第2回“もろおか寄席”を開催しました。パソコンサロンを毎月1回開催しました。

・子育て支援

健康ですくすく育つ夏休みラジオ体操、かけっこ練習を行いました。

・住民どうしの顔の見える関係

男の料理教室を開催して高齢社会の自立に対応。憩いの場として健康マージャンを行いました。

・支援が必要な人の見守り

各町内会が高齢者の支援を民生委員と行いました。

小学校の全校三ツ池公園遠足にトランシーバーを利用して安全安心に取組みました。

次年度の取組

- ・多くの町民が参加しやすい企画を計画し発信していきます。
- ・町民のコミュニケーションの場として、月2回健康マージャンを行います。
男の料理教室を年2回行います。
- ・学校と連携して行事のお手伝いをします。
- ・高齢者の支援を民生委員と強化します。

30年度に行った取組をさらに強化していきます！！



師岡こども学習会



男の料理教室



もろおかちよう

ひっとプラン港北 大倉山地区計画ニュース

地区計画目標

「あいの町 大倉山」

—ふれあい・支えあい・助け合い—

◇わたしたちが目指すまち

- ・住民一人ひとりがつながり、助け合いのできるまち 大倉山
- ・住民同士があいさつし合うことから、心を太っちょにしていくまち
- ・新しい住民が増えているまちであり、新旧住民や世代を超えて「ふれあい・支えあい・助け合い」、いざという時にも強い大倉山をつくっていかう
- ・住民みんなが積極的に地域活動に参加して、健康で住み良い町づくりをしよう

30年度の取組

1. 当地域では、大倉山地区社会福祉協議会が主体になって行う、高齢者への支援・青少年の見守り・子育て支援・元気づくりステーション・太尾ふれあいクラブによる高齢者への家事支援の活動等が福祉活動のベースになっています。それらは計画的に且つ継続して開催していますが、毎年新しい試みを追加することにより行事に新鮮さも加わり活性化し、地域に転入された方々と旧住民の交流も進んでいます。特に、当地区では、お子さんが増えており子育て世代の参加も活発になっています。
2. 上記と共に、安心して暮らせる住み良い町づくりを目指し、「大倉山夢まちづくり実行委員会」が主体となり、「大倉山さくらまつり」や「支えあいまつり」等の活動を、町内会・商店街・地域の団体等が中心になって、町ぐるみで推進しています。また、町づくりの一環として「花と緑のまちづくり」を推進していますが、今年度は太尾南公園・太尾堤緑道周辺の花壇や樹木の更なる充実をはかると共に、町全体を見渡しその他の地域にも花壇を順次整備し、地域の皆様の憩いの場づくりを拡充しています。



大倉山駅前通りの花壇



市之坪子供の遊び場花壇

31年度の取組

1. 当地区は今、子どもが大変増えている状況であり、本年も引き続き子どもにとって健全な環境づくりに力を入れて活動します。学校と地域が連携した学齢期にある子どもの見守りが課題となります。又、未就園児と親御さんを対象にした子育て支援についても地区社協をはじめ、どろっぶ・町会等が諸活動をとおして地域ぐるみで応援します。
2. 当地域も高齢者世代が年々増加していますが、地区社協・シニアクラブ等の活動で支援の充実し、又健康寿命を延ばそうという取組みを地域の皆様と共に推進していきます。
 - ・高齢者が憩えるサロンの充実、
 - ・高齢者の家事支援、
 - ・ボランティア&担い手の発掘、
 - ・元気づくりステーションやグラウンドゴルフなどによる健康づくり
3. 大倉山夢まちづくり事業の、花と緑の町づくりについて更なる活動を推進します。花と緑を通して住民の参加の輪を広げると共に、地域の憩いの場づくり、交流の場づくりを促進します。